



弱視、斜視は早期に発見を！

「弱視」ってご存知ですか？

赤ちゃんは生まれたばかりの時は、明るいか暗いか位しかわかりません。しかし、1ヶ月位でもものの形が、2ヶ月位で色が分かるようになり、3ヶ月になると動くものを追って目を動かせるようになります。そして、6歳頃には大人とほぼ同等の視力になるようです。

人間のいろんな能力は、正しく繰り返し使うことで発達しますが、視力もその一つで、赤ちゃんの頃からいろいろな物を見ることによって、それが刺激となり神経細胞や脳細胞が発達していきます。健康に視力が発達するためには、両目を同時に正しく使って見る、ということが重要です。

しかし、この視力が発達する時期に適切な刺激が得られないと、視力の発達が妨げられてしまいます。このように視力が悪い状態で止まってしまうことを「弱視」といいます。

弱視の原因としては、**屈折異常（近視・遠視・乱視）**や**斜視、不同視**などがありますが、3歳児健診でこれらが見逃された場合に、治療が遅れ、十分な視力が得られないとの指摘がなされています。

弱視も発達障害と同じく、**早期発見・早期治療**が重要です

でも、小さなお子さんや発達キッズの場合、検査自体が難しいことも多いです

「指さしができない」「理解ができない」「じっとしてられない」「話が聞けない」などで、結局「まあ、仕方ないか」、健診の場で測定できなかったために眼科受診を勧められても、「眼科に行ったとしてもまた検査をするのに一苦勞だし、普段の生活では視力に問題なさそうだし」と、ほったらかしにしてしまうこと・・・ありますよね。

このたび、このようなケースにぴったりの器械を導入いたしました。

お母さんに抱っこされた状態で、たった数秒で近視、遠視、乱視、不同視、斜視などの異常を検出することが可能な検査機器（対象：生後6ヵ月～大人）を、今回新たに導入しました。

「スポットビジョンスクリーナー」



お子様に近づきすぎない為、嫌がらずに検査可能です。斜視の検診にも有用です。

こんな症状ありませんか？

- ・ テレビや絵本を見るときに目を細めたり、首をかしげたりする
 - ・ 何となく、目の位置が真ん中でない気がする
 - ・ 絵本などに集中するのが苦手
 - ・ テレビを見る位置が異常に近い
 - ・ つまづきやすい、転びやすい
 - ・ 絵や物、人を見まちがえることがある
 - ・ 視力検査などで目を隠すのを極端に嫌がる
 - ・ 階段を異常にこわがる
- 3歳児検診などで 視力不良や斜視ではないかと指摘をされた

などの症状がある場合には、一度検査を受けることをおすすめします。

3歳児健診や就学前健診などで視力検査がうまくできなかったなど、お子さんの視力について気になる場合は、お気軽に当院へご相談ください。